

# 損得と尊徳

見えない価値の本質

TAOISM / THE ESSENCE OF INVISIBLE VALUE



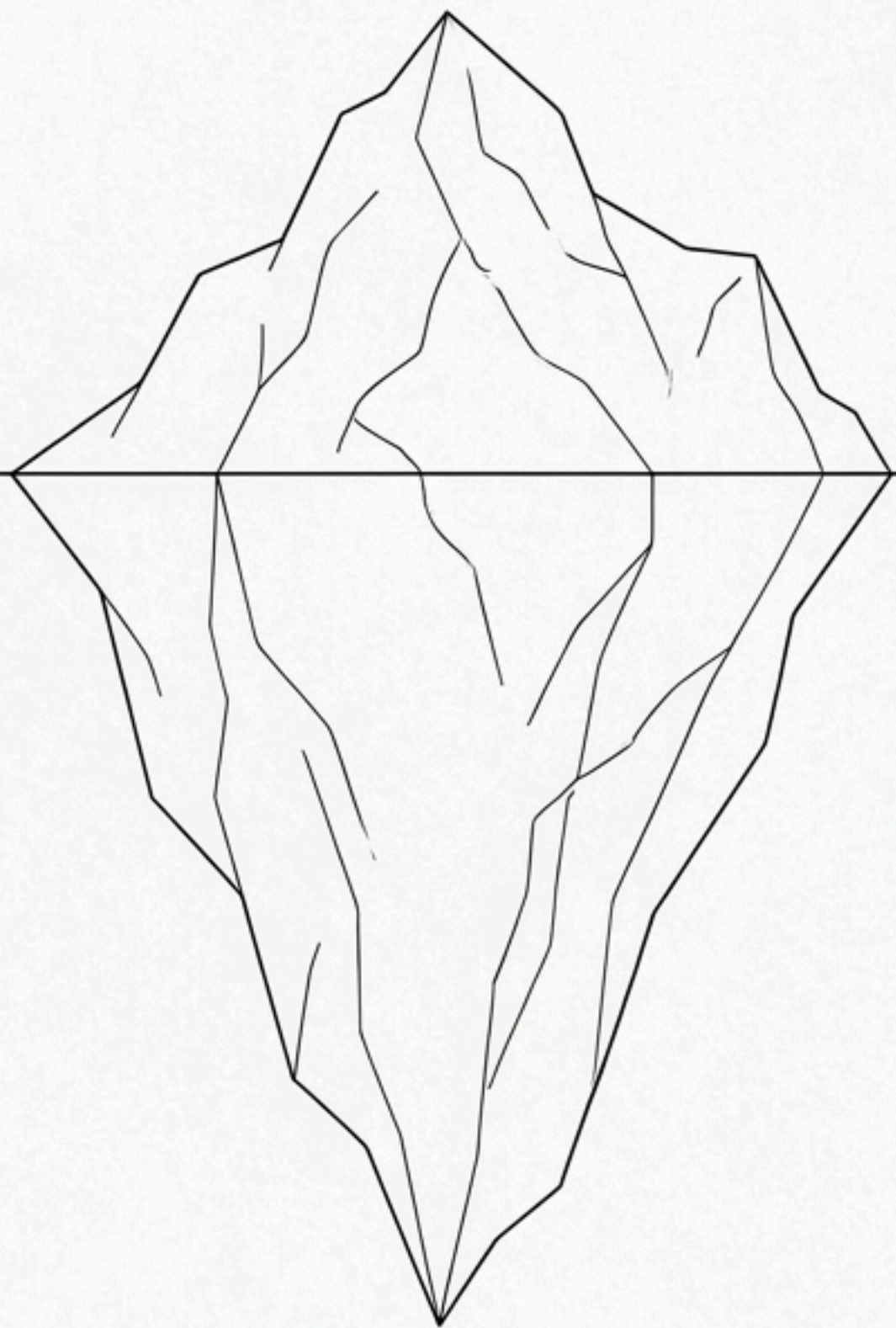
生存本能としての自然な反応：

- ・ 損をしたくない
- ・ 得をしたい



短期的な得が、長期的な損になっていないか。  
目先の利益が、未来の価値を削っていないか。

その損得、  
本当に「得」に  
なっていますか。



## [見える利益 / 一見すると合理的]

- ・時間を節約する
- ・お金を守る
- ・効率を優先する
- ・自分に有利かで決める

## [見えない損失 / 惹き起こされる代償]

- ・信頼を失う
- ・関係が浅くなる
- ・機会を逃す
- ・応援されなくなる

数字に出にくいからこそ、多くの人は気づかない。  
TAOISMではこれを「見えない損失」と呼ぶ。



そんとく

# 損得

[計算の基準]

自分にとって  
有利か、不利か。

# 尊徳



[在り方の基準]

その行動は尊いか、  
徳があるか。  
美しいか、誠実か。

	損得	尊徳
判断基準	自分に利益があるか	誠実で美しい在り方か
視点	目先・短期	未来・長期
アクション	効率を優先し、 手間を省く	誰も見ていなくても 礼を尽くし、助ける
もたらす結果	見えない損失 (信頼・ご縁の低下)	信用、信頼、ご縁、 応援の蓄積

尊徳の選択は一見すると「損」（非効率・手間）に見える。  
しかし、それが長期的な「得」の土壌となる。

# TAOISMの段階論



第一段階：損得で動いていると気づく



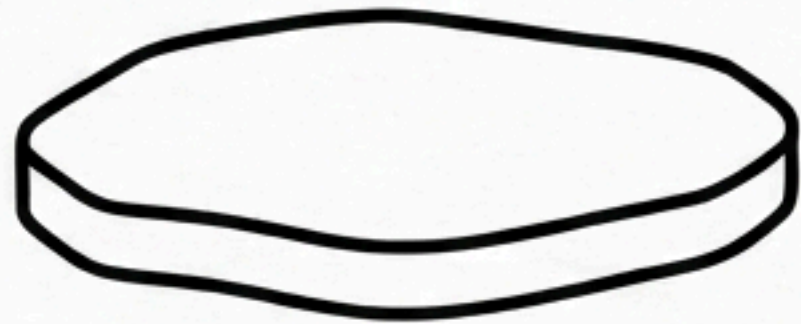
第二段階：尊徳で判断する



第三段階：見返りを手放す

## 【第一段階】 自分の基準を知る

まずは生存本能としての「損得」  
で動いている自分を否定せず、  
客観的に自覚する。



## 【第二段階】 選択の基準を変える

損か得かではなく、「尊いか」  
「徳があるか」で行動を選ぶ。  
少し手間でも丁寧に対応する。

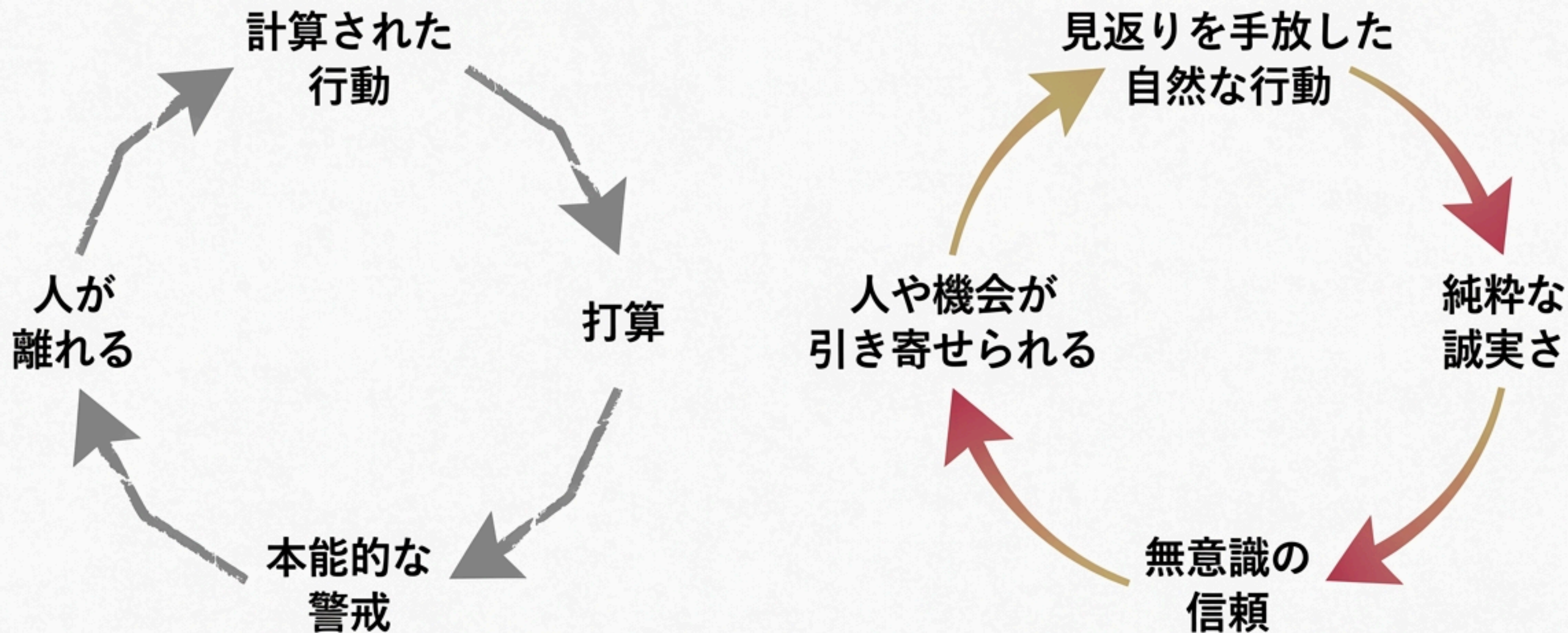


見返り前提の善行は、  
まだ損得の延長に過ぎない。

### [第三段階] 見返りを手放す

人は評価されたい、報われたいと願う。それ自体は自然なこと。しかし本質はその先にある。  
返ってくるかどうかを超えて、ただ尊いから行う。ただ徳あるから選ぶ。ここに静かな強さが生まれる。

# なぜ、見返りを手放した瞬間に「見返り」が来るのか



信頼は計算からは生まれない。人は「打算か、誠実か」を本能的に見抜く。  
徳ある人には人が集まり、尊い人には機会が集まるという構造。

損得の先にある豊かさは、浅い。  
(短期のもの)

尊徳の先にある豊かさは、深い。  
(長期のもの)

あなたの今の選択は、どちらで動いていますか。  
その一つひとつが、未来を形作ります。

利益より在り方。  
効率より誠実。  
目先より未来。



TAOISMは、整える思想。  
尊徳を選び続けること。それが、本当に豊かな人生へ続く道となる。